

# テーマ 全ての子どもを幸せに

## ■ 2030年の目指す姿

- 子どもの幸せ100%の社会
- 子どもが主体的に学び、遊ぶことができる社会
  1. 子どもの取り残しゼロ
  2. 自尊心を育む教育を実現

## ■ 2024年の目指す姿

- 子ども食堂などの子どもの居場所となる拠点を市内全域に拡大するほか、食事や学習の支援に加え、支援すべきサービスを拡充（福祉）
- 学校や地域での取り組みをSDGs要素を持たせて発展的に継続（教育）
- 福祉・教育の部局を超えたネットワークの連携・拡大

## ■ プロジェクト

金沢子ども幸せプロジェクト ～すべての子どもが自由に学び遊べるマチへ～

2021年度

2024年

子ども食堂などの拠点の充実

学校・地域の取組の活性化

教育・福祉のネットワークの  
連携・拡大

- 子ども食堂の面的拡大に向けて、SDGsパートナーを活用するほか、様々な団体（子どもの食育や健康増進に関わる団体等）と連携し、子ども食堂等の機能を拡充する取り組みを展開
- 学校と地域ですすでに行われている素晴らしい活動を評価し、SDGsの取組という認識を持たせ、発展的に継続させていく
- 福祉局や教育委員会でそれぞれ展開しているネットワークを連携。  
貧困や生活支援だけでなく、不登校児童など、衣・食・住、さらに教育の部分も含め、困っている子どもを支援する団体において、相互に情報交換等を行う。  
→ 将来的にはスポーツや文化活動のほか、多様な支援及び情報発信をするネットワークへ発展

## ■ 問題点

- 子どもの活動が制限される
  - ・ 貧困のため、経済的に活動が制限される
  - ・ 親の意識が低い、子どもの自尊心が低い
  - ・ 共働きなど、親が多忙で活動が制限されている。
- SOSをあげられない子どもへのアプローチの課題
  - ・ 地域での子どもの見守りには地域差がある
  - ・ 子ども食堂の偏在性
  - ・ 子どもソーシャルワーカーの存在の周知
  - ・ そもそも支援者が少ない（ファミサポなど）
  - ・ 子ども達が自ら情報を求めるスキルや教育がない
- 教育と福祉の連携の難しさ
  - ・ 縦割り行政の弊害
- 社会の認識の欠如
  - ・ 子どもの貧困問題への理解不足
  - ・ 社会全体で子どもを守り育てようという意識の不足

# テーマ 緑と木を活かしきる

## ■ 2030年の目指す姿

- 緑の資源（ヒト・モノ・クウカン）が循環するまち
  - ・ 様々なヒトが就業や体験の場として森林を活用している
  - ・ 木の文化によるモノが身近にある生活をおくっている
  - ・ ライフステージに応じて緑のクウカンの利用している
  - ・ 魅力ある水と緑のネットワークが形成されている

## ■ 2024年の目指す姿

- 森林資源（林相・樹種、特徴など）の調査
- 金沢市が求める「木の文化都市」の具体的な方針・フラッグシップ構想完成
- 市民が中山間地の農地や林地を借りた新たな農林業が生まれる
- 森林をステージにした新たな金沢市のサービスネットワークが構築される（教育・観光と連携）

## ■ 問題点

- 緑のクウカンサービスを提供する場と人がいない
- 官民連携したサービスが提供できていない
- 森林の資源が量・質・種類共に不正確で、金沢市の森林に適した活用方法が明確でない
- 建築基準法等の木造に関する法的な制限が多い
- 観光効果や市民の意識改善に寄与するシンボルがない
- 木の文化都市構想をいかに市民生活に展開していくか
- 市民が木を利用するメリットを認識できていない
- こどもが森林に触れる機会が少ない
- 森林の機能を多面的（健康・福祉・防災・生物多様性の保全…）に捉えられていない
- 里山の維持が困難になってきている

## ■ プロジェクト

### KANAZAWA型グリーンインフラ活用プロジェクト

2021年度

森林と都市を繋ぐ人材の発掘・育成  
（森林サービスネットワーク形成準備）

木の文化都市の将来像の作成

グリーンインフラの整備と活用

- ・ 庁内横断・官民連携の「森林サービス会議（仮）」を設置する。
- ・ 森林サービスを提供する先行事例や団体を調査し、誘致にむけて対象を絞り込む。
- ・ KANAZAWA型森林ライフスタイル方針の作成。
- ・ 森林資源を様々な面から調査し、評価を行う。
- ・ 観光面や市民の意識改善に寄与するシンボル（特区、施設）を計画する。
- ・ 土地所有者や地元との協議により市民森林制度に向けた課題整理と制度構築を行う。
- ・ 「木の文化都市」構想を広く市民に展開するため、「木」の魅力を発信するモデル事業を実施する。
- ・ グリーンインフラの整備活用の担い手（関連した活動をしている市民・NPO）のネットワーク化を進める

2024年

# テーマ 全てのひとが自分らしく活躍する

## ■ 2030年の目指す姿

- 年齢、性別、国籍、障害等の有無に関わらず、全てのひとが自分らしく活躍できるカラフルなまち
- 固定的性別役割分担意識が解消され、先入観や慣例にとらわれず、個人が尊重される社会

## ■ 2024年の目指す姿

- 男性の育児休業取得率5割 ●スマートワークの導入企業3割
- 市役所がダイバーシティ組織になる
- LGBTQフレンドリー条例制定、企業登録制度開始
- 外国人住民の5割が町会に加入
- 年齢・国籍・障害の有無に関係なく就職ができる企業が増える

## ■ 問題点

- 男性・女性の意識  
（「男性だから・女性だから」の幼少期からの刷り込み、固定的性別役割分担意識）
- 性暴力・女性に対する暴力がなくなる
- 男女の賃金格差がある ●男性の育休取得・時短勤務少ない
- シングルマザーが社会参画しにくい
- 有給休暇取得率が低い・取得しづらい
- 超過労働が美德として残っている
- 障がい者に対する理解が低く、障がい者の社会参加の機会も少ない
- LGBTの認知度が低い、嫌悪感を持つ割合が高い。
- パートナーシップ制度がない。
- 外国人住民と地域コミュニティに距離感がある
- 自分と違う他者への許容度が低い

## ■ プロジェクト

### ダイバーシティKANAZAWAプロジェクト

2021年度

2024年

多様な人材ネットワークの構築

多様な価値観を大切に  
するまちづくり

スマートワークの推進

- ・外国人と地域住民とのネットワークを強化する
- ・活躍意欲のある高齢者・障害者と事業者（団体）のマッチングを促進する
- ・当事者（外国人、障がい者、女性、LGBTQ…）の「IMAGINE KANAZAWA パートナーズ」への加入を促進する
- ・LGBTQへの理解促進その他の支援を当事者と協力して行う  
（「アライ」個人・企業ネットワークの形成など）
- ・ダイバーシティ&インクルージョンへの機運を高めるための継続的なイベントを計画し開催する
- ・多様性を保証するための計画や条例の整備する
- ・スマートワーク等、時間と場所にとらわれない働き方を推進する
- ・男性の育休取得・家事の促進への官民連携した取り組みを実施する

# テーマ SDGsをあたりまえに

## ■ 2030年の目指す姿

● 全ての人や企業、団体が個人レベルやコミュニティレベルで、SDGsに関連する取組を意識せずにやれており、ゴール達成に貢献している。

## ■ 2024年の目指す姿

● 市民モニターで8割の人にSDGsが認知されている。  
● 学校教育、公民館活動などの生涯学習、企業研修等の様々な場面でSDGsについて学べる機会が提供されている。  
● パートナシップを実現するためのプラットフォームができており、そこで、どんどん新たな取り組みが生まれている。

## ■ 問題点

● 市民のSDGsの認知度がまだまだ低い。  
● SDGsを正しく理解し、自分事として考えてもらうための動機付けやインセンティブが必要となる。  
● SDGsについて、表面的でなく、きちんと伝えることのできる人材の育成が必要である。

## ■ プロジェクト

SDGsを知ってみよう！やってみよう！プロジェクト

2021年度

2024年

SDGs認知度アップ事業  
(気運醸成)

● 市内でのロゴ活用の促進、広報番組等による市民周知、企業とタイアップした広報宣伝を図るなど、認知度向上につながる取組を行う。

SDGs体験事業  
(動機づけ)

● SDGsパートナーズを活用し、地域・企業が主体となったSDGsを体感できるイベントを開催（イベントの募集、既存イベントの活用）することで、市民が自分事として捉える機会をつくる。また、SDGsの取組を推進している企業への支援や顕彰などを行い、企業への動機づけを図る。

SDGs担い手育成事業  
(人材育成)

● SDGsの担い手育成を目的に、パートナーズ（企業、団体）が相互に学び合い、理解の向上を図るSDGs講座を開催する。